

(2) 大学に対する指摘事項および勧告などに対する対応

○文部科学省からの指摘事項および大学基準協会からの勧告などに対する対応（A群）

学部、学科、大学院研究科の新增設等の認可等の際に、文部科学省から付された履行条件や視学委員の視察の際の指摘事項に対する実施状況、および大学基準協会からの勧告など外部からの指摘・勧告等については、適切に対応してきている。

1999年度以降の学部設置（現代社会学部2000年度設置、薬学部2005年度設置）、学科設置（学芸学部情報メディア学科2002年度設置、現代社会学部現代こども学科2004年度設置）、大学院研究科設置（国際社会システム研究科2004年度設置）等に係る文部科学省からの指摘（留意事項）とそれに対する対応については、以下のとおりである。

（ア）現代社会学部 社会システム学科 設置認可

1）認可時（平成 11（1999）年 12 月 22 日）

留意事項：編入学生の受入れについては、定員の遵守、学科の設置の趣旨に沿った既修得単位の認定及び履修上の配慮に努めること。

履行状況： 学生確保の方策

本学では、すでに平成 8 年度より学芸学部三年次編入学定員を設定（英語英文学科 50 名、日本語日本文学科 30 名、音楽学科 10 名）し、編入学生の受け入れを積極的に行なっている。また、編入学定員を設定していない生活科学部についても、可能な限り、三年次編入学生を受け入れてきた。平成 9 年度以降の本学における三年次編入学の平均実質競争率は、約 2 倍となっている。

志願者および合格者のうち、同志社女子大学短期大学部以外の短期大学等からの志願者および合格者の構成割合（平均）は、志願者で 125 人、60%、合格者で 57 人、49%を占めており、学外の短期大学部からの志願者が過半数に達している。

未履行事項についての実施計画：

学生確保の方策

本学では、安定的な編入学志願者確保のため、同志社女子大学短期大学部以外の指定短期大学を定め、推薦入学を実施している。その実績を踏まえ、現代社会学部においても次の指定短期大学からの推薦入学制度を導入し、学生確保に努めていく。

（指定予定短期大学）

長崎外国語短期大学

新島学園女子短期大学

松山東雲短期大学
梅花短期大学
滋賀女子短期大学
帝塚山短期大学
鹿児島純心女子短期大学
大阪信愛女学院短期大学

また、今回の三年次編入学定員の設定で、社会科学分野を希望する学生の受け入れも可能となることにより、今以上に幅広い学問分野の短期大学の学科等から受け入れが可能となり、一層の受験者が見込まれる。

以上により、同志社女子大学短期大学部以外の短期大学等からの志願者・合格者の実績、指定短期大学の推薦入学制度の導入を勘案すると、同志社女子大学短期大学部廃止後も、既設学部の三年次編入学定員を含め、現代社会学部においても三年次編入学定員に対する学生の確保は十分可能であると考えられる。

既修得単位の認定の方法

既修得単位の認定にあたっては、「第三年次編入学生の入学前の既修得単位の認定に関する内規」および「第三年次編入学単位認定表」を定めて、教務主任が個別に相談に応じることにより対応する。

認定単位数は、既修得単位数以下とし、かつ、72単位の範囲内とする。ただし、大学に2年以上在学した者、短期大学卒業生の入学資格は、入学時に62単位以上の修得済みの者を対象とするため、実際には62単位～72単位の範囲内で科目認定が行われる。

履修上の配慮

履修上の配慮として、「第三年次編入学単位認定表」に基づき、次の通り計画している。

「全学共通科目」については、「共通学芸科目」等各区分において、最大限の単位認定を行うこととし、「選択科目の最低履修単位数をこえる修得単位数」として24単位まで一括認定を行ない、認定単位数の上限を72単位とすることにより、編入学生が2年間で卒業できるように配慮している。

また、単位の認定と編入後の履修指導については、教務主任が個別に相談に応じ、適切に対応できるようにする。

一方、「学科科目」において、「入門・概論科目」は卒業必要単位18単位のうち、最大認定単位数を12単位とし、現代社会に関する学問的思考の基礎を学ぶことから、学生の希望を勘案の上、決定することになっている。「法律系科目」は本学部の教育課程上の特色の一つであり、現代社会を形成する根幹である法を学習させるため、卒業必要単位6単位の

うち、最大認定単位数は2単位のみとする予定である。本学部のコアとなる科目であり、学生自らの研究テーマを系統的に深化・展開させていく「コース科目」や、学習の積み重ねを整理し、自由な発想と創造性を発揮させるために設置した「応用演習」、「卒業研究」の科目については、科目の性格上、それらの科目への単位認定は行わないこととした。

2) 年次計画履行状況調査時(平成12(2000)年5月1日)

履行状況: 既修得単位の認定の方法

既修得単位の認定にあたっては、「第三年次編入学生の入学前の既修得単位の認定に関する内規」および「第三年次編入学単位認定表」を学内諸機関で現在検討中である。また学生との対応は、教務主任が個別に相談に応じる予定である。

3) 年次計画履行状況調査時(平成14(2002)年5月1日)

履行状況: 学生確保の方策

2002年度三年次編入学試験では定員20名に対し、受験者・合格者17名、入学者14名定員充足率70%であった。

当初、計画していた短期大学への指定校については、諸事情(学力等)を総合的に判断した結果、現在指定先を再検討をしているところである。今後は短期大学だけではなく、四年制大学に対しても広報を積極的に行ない、定員を充足できるよう努めていく。

履修上の配慮

既修得単位の認定にあたっては、「第三年次編入学生の入学前の既修得単位の認定に関する内規」に基づき教務主任が個別に相談に応じている。

「全学共通科目」については、「共通学芸科目」等各区分において、最大限の単位認定を行うこととし、学科科目の認定状況により最低30単位から最大46単位まで認定を行ない、認定単位数の上限を72単位とすることにより、編入学生が2年間で卒業できるように配慮している。

また、単位の認定と編入後の履修指導については、教務主任が個別に相談に応じ、適切に対応できるようにする。

一方、「学科科目」において、「入門・概論科目」は卒業必要単位18単位のうち、最大認定単位数を8単位とし、現代社会に関する学問的思考の基礎を学習させるため必修の5科目については単位認定を行わない。「コース科目」は本学部のコアとなる科目であり、学生自らの研究テーマを系統的に深化・展開させていく科目であるため、卒業必要単位34単位のうち最大認定単位数を10単位としている。「法律系科目」は本学部の教育課程上の特色の一つであり、現代社会を形成する根幹である法を学習

させるため、卒業必要単位 6 単位のうち、最大認定単位数は 2 単位のみである。学習の積み重ねを整理し、自由な発想と創造性を発揮させるために設置した「応用演習」、「卒業研究」の科目については、科目の性格上、それらの科目への単位認定は行わないこととした。

4) 年次計画履行状況調査時(平成 15(2003)年 5 月 1 日)

履行状況： 学生確保の方策

2003 年度三年次編入学試験では定員 20 名に対し、受験者・合格者 17 名、入学者 13 名定員充足率 67%であった。

今年度は新たに社会人を対象とした三年次編入学試験(A0 入試)を実施する。同志社女子大学短期大学部卒業生をはじめ、社会人に対して積極的に広報を行い、定員を充足できるよう努めていく。

(イ) 学芸学部 情報メディア学科 設置認可

1) 認可時(平成 13(2001)年 8 月 1 日)

留意事項：図書館の閲覧座席数の充実に努めること。

2) 年次計画履行状況調査時(平成 14(2002)年 5 月 1 日)

履行状況：情報メディア学科申請時、閲覧座席数は 453 席であった。現在、既設書架等を整理することにより、現在、合計 492 席(39 席増)の閲覧座席を設置している。

3) 年次計画履行状況調査時(平成 17(2005)年 5 月 1 日)

留意事項：生活科学部人間生活学科の定員超過の是正に努めること。

履行状況：

生活科学部 人間生活学科

年度	入学定員	入学者数(4月末付)
平成14年度	80	117
平成15年度	80	110
平成16年度	80	106
平成17年度	80	81

未履行事項についての実施計画：

生活科学部人間生活学科では、平成 16 年度以前において入学辞退者数の予測を上回る入学者数の定着があった。しかし、平成 17 年度において辞退者数の予測をより精緻化したことにより、入学者数は 81 名と目標の

100 名以内となり平均入学定員超過率も 1.24 となった。今後も入学者数が適切になるよう努力する。

(ウ) 国際社会システム研究科 設置認可

1) 認可時(平成 15(2003)年 11 月 27 日)

留意事項:特になし

2) 年次計画履行状況調査時(平成 17(2005)年 5 月 1 日)

留意事項:16 文科高第 1034 号平成 17 年 3 月 30 日付「生活科学部人間生活学科の定員超過の是正に努めること。」

履行状況:2005 年度入学者数は 81 名であり、入学定員超過率は 1.01 倍であった。今後も定員超過の是正に努めます。

未履行事項についての実施計画:

2005 年度入学者数は 81 名であり、入学定員超過率は 1.01 倍であった。今後も定員超過の是正に努めます。

(エ) 薬学部 医療薬学科 設置認可

1) 認可時(平成 16(2004)年 11 月 30 日)

留意事項:生活科学部人間生活学科、同志社大学工学部情報システムデザイン学科、環境システム学科の定員超過の是正に努めること。

2) 年次計画履行状況調査時(平成 17(2005)年 5 月 1 日)

履行状況:

生活科学部 人間生活学科

年度	入学定員	入学者数
平成 14 年度	80	117
平成 15 年度	80	110
平成 16 年度	80	106
平成 17 年度	80	81

同志社大学 工学部情報システムデザイン学科(平成 16 年度設置)

年度	入学定員	入学者数
平成 16 年度	100	164
平成 17 年度	100	89

同志社大学 工学部環境システム学科（平成 16 年度設置）

年度	入学定員	入学者数
平成 16 年度	50	65
平成 17 年度	50	65

未履行事項についての実施計画：

生活科学部人間生活学科では、平成 16 年度以前において入学辞退者数の予測を上回る入学者数の定着があった。しかし、平成 17 年度において辞退者数の予測をより精緻化したことにより、入学者数は 81 名と目標の 100 名以内となり平均入学定員超過率も 1.24 となった。今後も入学者数が適切になるよう努力する。

同志社大学工学部では、長年の入学試験の実績を踏まえて合格者発表を行い、指摘を受けた 2 学科以外の工学部 7 学科の過去 4 年間の学科毎の平均入学定員超過率の平均は 1.00 ときわめて適正な数値を達成している。一方、指摘を受けた 2 学科は、新設学科であること及び他の学科とは教育研究の内容及び入学試験科目が若干異なっているため、蓄積された統計情報を用いても適切に合格者数を算出できなかった。今後も受験者層の分析及び入学試験を重ねて統計情報を得ることにより、入学者数が適切になるよう努力する。

3) 年次計画履行状況調査時（平成 18（2006）年 5 月 1 日）

履行状況：同志社大学 工学部環境システム学科（平成 16 年度設置）

年度	入学定員	入学者数
平成 16 年度	50	65
平成 17 年度	50	66
平成 18 年度	50	45

未履行事項についての実施計画：

同志社大学工学部では、継続して長年の入学試験の実績を踏まえた合格者発表を行っており、指摘を受けた環境システム学科以外の 8 学科の過去 4 年間の学科毎の平均入学定員超過率の平均は 1.05 と適正な数値を達成している。指摘を受けた環境システム学科については、新設学科であること及び他の学科とは教育研究の内容及び入学試験科目が若干異なっているため、蓄積された統計情報を用いても適切に合格者数を算出できず、開設から 2 年間は入学定員を大きく上回ることであったが、平成

18年度においては過去2年間の実績を踏まえ慎重に合格発表をした結果、入学者が入学定員を下回り平均入学定員超過率の平均は1.17となった。今後も受験者層の分析及び入学試験を重ねて統計情報を得ることにより、入学者数が適切になるよう努力する。